

經濟論叢

第134卷 第1・2号

-
- ニコルソンの原価管理思考について……………野村秀和 1
- 日本曹達から日曹コンツェルンへ……………下谷政弘 28
- ウォルワース会社における予算
システムの確立……………斎藤雅通 57
- 經濟民主主義と社会主義……………古河幹夫 84
- 1820年代末フランス製鉄業における資本・
賃労働関係……………清水克洋 100

經濟学会記事

昭和59年7・8月

京大經濟學會

記 事

特別講演会

京都大学経済学会の主催により、昭和59年6月1日(金)午後2時から5時まで、米
国ペンシルバニア大学名誉教授 Britton Harris 氏の講演会が開催された。ハリス教授
は1964年から最近までペンシルバニア大学の教授であって、とくに1972年からは
UPS Professor of Transportation Planning and Public Policy のチェアを占め、また1977
年から81年までは School of Public and Urban Policy の Dean であった。都市経済、
都市計画、交通政策にまたがる分野で活躍してきた学者であり、日本の留学生で同教授
の指導を受けた者も少なくない。

ハリス教授の講演テーマは、「住宅立地に関する経験モデル」であったが、最も基礎
的なモデルとしてハーバート・スティーブンス・モデルを取り上げて、その要点を明ら
かにした上で、イングラム、ケイン等による National Bureau of Economic Research
モデルへの発展を展望し、さらに最近発達しつつある単純効用モデルについて説明をさ
れた。また、ロジック・モデルとの関係についても言及され、全体として、住宅立地モ
デルの問題点・発展方向について示唆に富む報告が行われた。

講演の後、活潑な質疑応答が行われたが、工学部土木工学教室より多数の参加があ
り、大阪大学、香川大学、岐阜大学等からも参加者があって、極めて盛会であった。

(山田浩之)

定例研究会

1984年度第1回の定例研究会が、新会員の歓迎会を兼ねて、去る6月7日午後2時よ
り経済学部特別講義室において開催された。

報告者は本学部の大学院生塩地洋氏と講師 HORIOKA, CHARLES 氏であった。そ
れぞれの報告のあと、50名近くの出席者から活潑な質問・討論が行なわれ盛会のうちに
終了することができた。

また、今回も報告会場の準備、当日の会場運営などに御尽力頂いた編集室の石原文蔵
氏、資料室の細川元雄・桜田忠衛両氏に心からお礼申し上げたい。

(研究委員 小野一郎・下谷政弘、院生委員 八木 正)